

卒業生アンケート、企業評価アンケートの実施結果について

1. 目的

学生の卒業後の状況から、ディプロマ・ポリシーに照らして、教育成果を検証する。卒業生の資質・能力の状況に関するアンケート調査を実施し、調査結果等を教育活動の改善に反映させる。

2. 実施概要

	卒業生アンケート	企業評価アンケート
調査対象	2020年度(2021年3月)学部卒業生および大学院修了生(1,722名)《入社3年目》	学内合同企業説明会参加企業99社
調査内容 (★)	① 入社時点での自身の資質・能力の水準(自己評価) ② 現時点(社会人3年目)での自身の資質・能力の水準(自己評価)	① 学部卒業者の新卒採用にあたって重視する項目(3つ) ② 本学の学部卒業生の入社時点での資質・能力の印象(水準) ③ 大学院修了者の新卒採用にあたって重視する項目(3つ) ④ 本学の大学院修了生の入社時点での資質・能力の印象(水準)
調査方法	メール(Googleフォーム)	メール(Googleフォーム)
調査期間	2023年7月12日(水)～8月22日(火)	2023年7月12日(水)～8月22日(火)
回答率	3.9%(67人/1,722人) *送信エラー9件	24.2%(24社/99社)

() 学生アンケート(学部3年次、学部卒業時)で確認している学部ディプロマ・ポリシー達成度に準じた設問(資質・能力)16項目について、項目の重要度と卒業生の水準を問う。

対人能力	関係構築力	異なる立場や意見の相手でも相手を尊重し、人間関係を築くことができる
	協働力	他者と状況を共有し、自己や他者の役割を理解しながら、協力して物事を進められる
	調整力	異なる意見を調整し、交渉・説得をして合意を形成することができる
対自己能力	自己制御力	自己の感情や気持ちを認識し、言動をコントロールできる
	自己効力感	他者と自己の違いを認め、自己の強みを認識することができる
	主体性・持続力	自己の意思や判断において自ら進んで行動し、一度決めたことはやりきることができる
対課題能力	問題発見力	様々な角度から問題を分析し、問題の本質を見抜き、原因を明らかにすることができる
	計画立案力	ゴールイメージを明確にし目標を立て、その実現に向けたシナリオを描くことができる
	実践力	自ら行動にとりかかり、実行に移すことができる。状況を見て、計画や行動を柔軟に変更することができる
専門基礎力	専門分野の基礎知識・技術を身につけている	
高度な専門性	専門分野における高度な専門性を身につけている	
リベラルアーツ	幅広い教養や情報リテラシーを身につけている	
データリテラシー	データを読み、分析・解釈し、その知見をデータに基づいて説明することができる	
英語力	仕事に必要な英語力を身につけている	
生涯学習力	主体的に学び続ける意欲がある	
社会的責任・倫理観	仕事における責任感や倫理観を備えている	

2023年度 卒業・修了生アンケート 概況

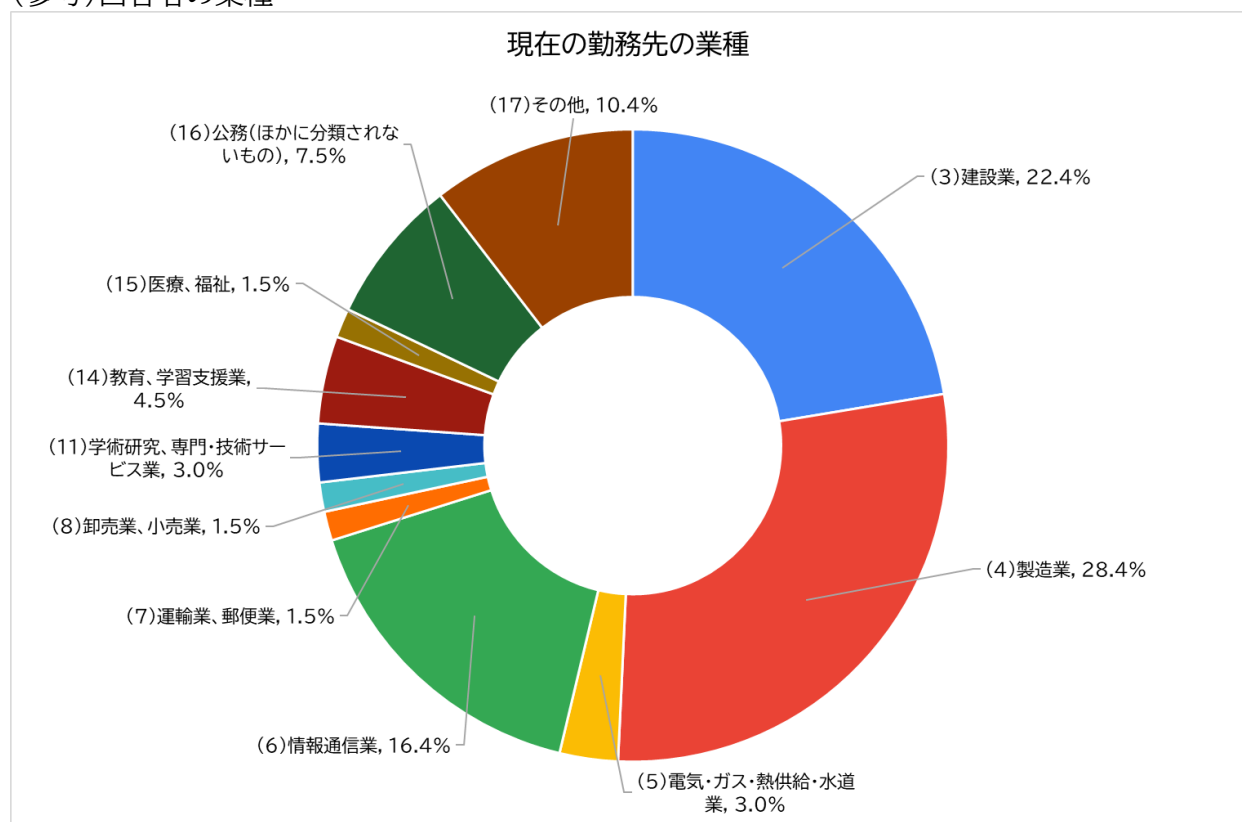
1.回収状況

回収数が少ないため(67名)、学科・研究科ごとの集計は行わない。

(単位:人数)

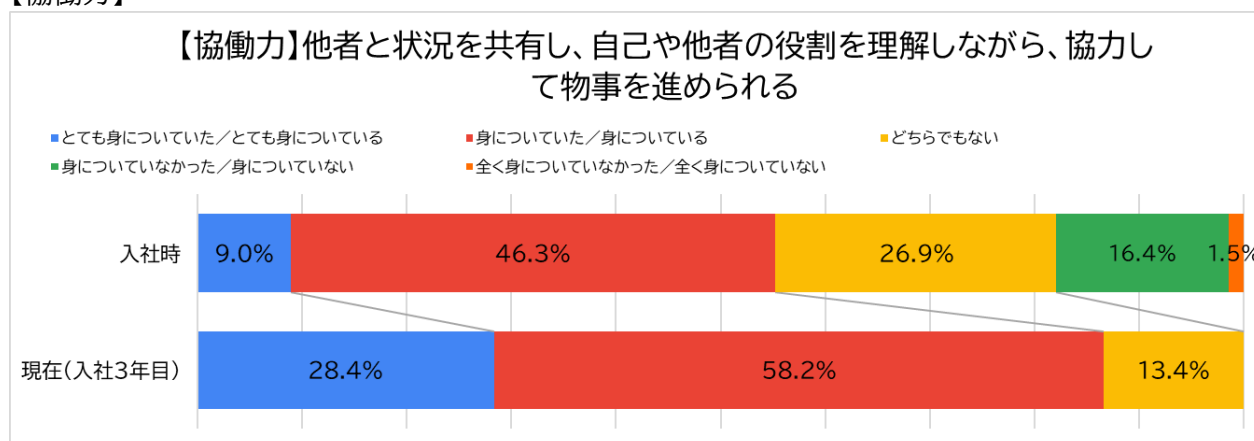
	回答数		回答数
【学部】都市デザイン工学科	4	【学部】コンピュータ科学科	0
【学部】建築学科	3	【学部】情報システム学科	1
【学部】機械工学科	7	【学部】情報メディア学科	0
【学部】電気電子システム工学科	9	【学部】情報ネットワーク学科	1
【学部】電子情報通信工学科	6	【学部】知的財産学科	4
【学部】応用化学科	2	【大学院】工学研究科	8
【学部】環境工学科	4	【大学院】ロボティクス&デザイン工学研究科	7
【学部】生命工学科	0	【大学院】情報科学研究科	2
【学部】ロボット工学科	3	【大学院】知的財産研究科	0
【学部】空間デザイン学科	4	未回答	2

(参考)回答者の業種



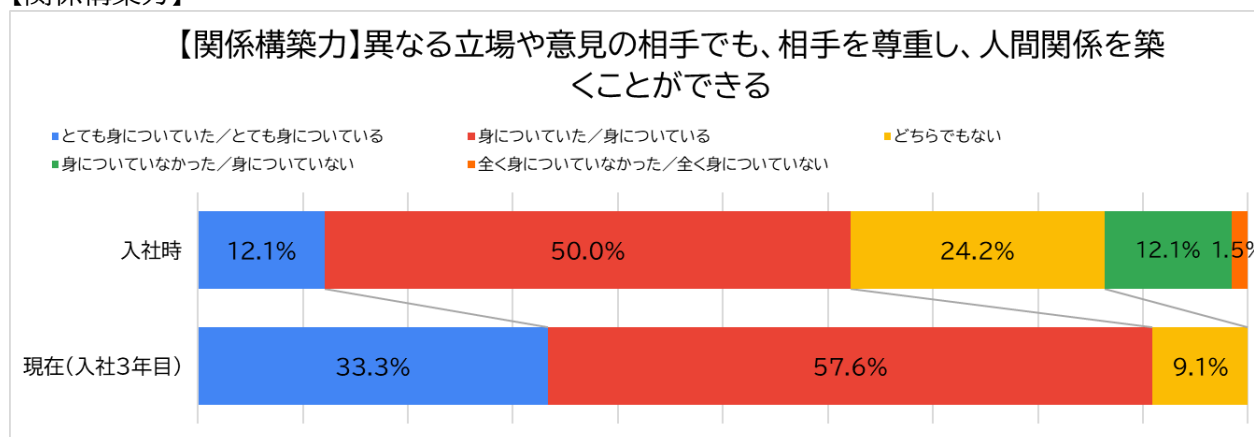
2.アンケート結果(抜粋)

【協働力】



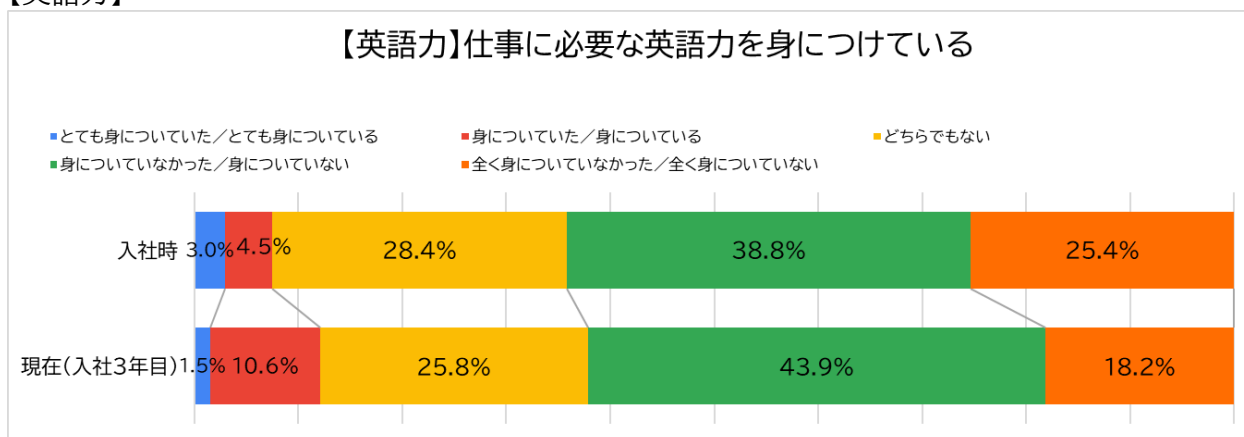
- 「とても身についている」の回答者が入社時と現在(社会人3年目)比較で+19.4%と大幅に伸長。現在(社会人3年目)における、「とても身についている」「身についている」回答者の合計は86.6%であり、今回のアンケートの中で、TOP2BOXのスコアが最も高い設問となった。
- 「身についていない」「全く身についていない」の回答者は0名であり、勤務先での経験等を通して、他者と協働して物事を進める力を身につけられている。

【関係構築力】



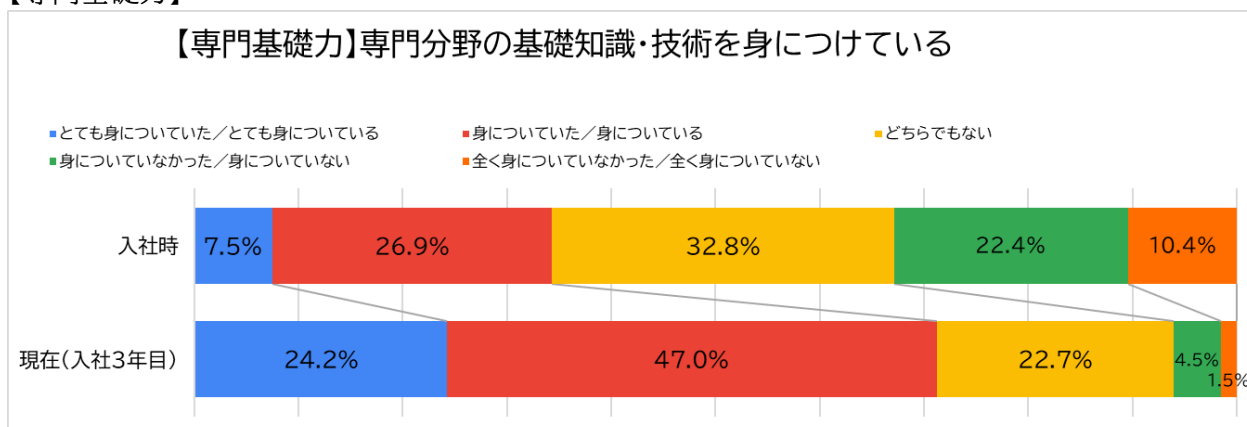
- 「とても身についている」の回答者が入社時と現在(社会人3年目)比較で+21.2%と大幅に伸長。
- 「身についていない」「全く身についていない」の回答者は0名であり、勤務先での経験等を通して、異なる立場や意見の相手でも、相手を尊重し、人間関係を構築している様子がうかがえる。

【英語力】



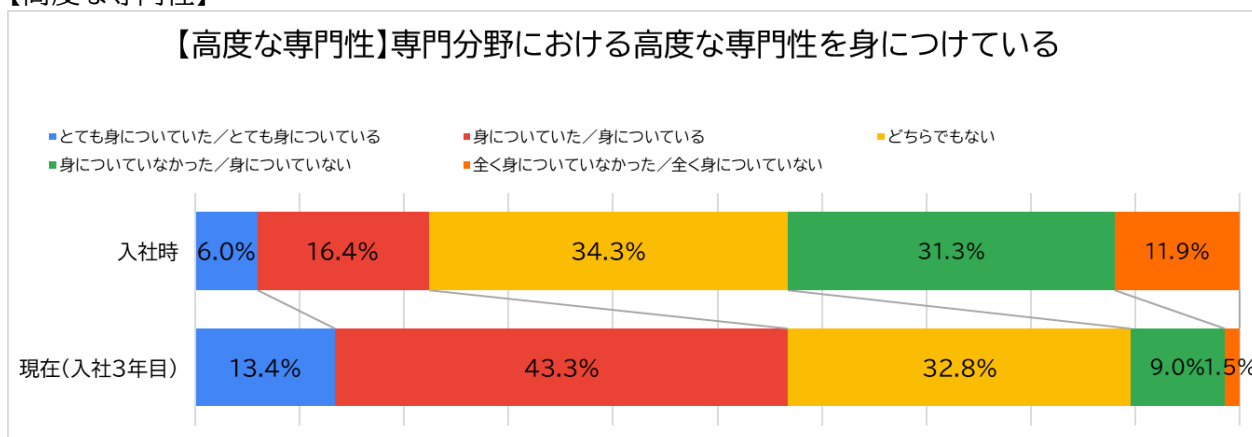
- 社会人3年目時点での「とても身につけている」の回答者が1.5%と入社時点と比較して△1.5%であり、今回のアンケートの中で唯一「とても身につけている」のスコアが低下した設問となった。
- 「とても身につけている」「身につけている」の回答者の合計も、+4.6%と微増であった。実務で英語を使う機会が少ないことや、英語の勉強をする時間が学生時と比較してあまりとれないことなどが影響していると推測される。

【専門基礎力】



- 「とても身につけている」「身につけている」の回答者は入社時点で34.4%だったが、社会人3年目時点では、その数値が約2倍の71.2%にまで伸長した。

【高度な専門性】



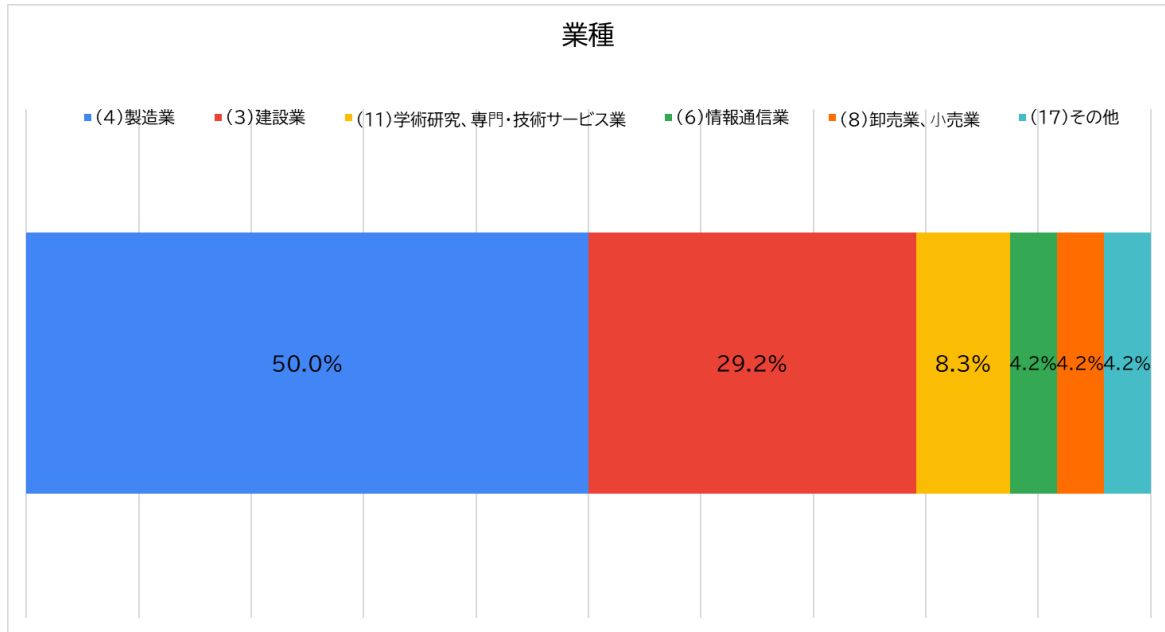
- 「とても身につけている」「身につけている」の回答者は入社時点で22.4%であり、「専門基礎力」と比較すると△12.0%であった。
- しかし、社会人3年目時点では、その数値は56.7%と、入社時と比較すると約2.5倍と大幅に伸長した。実務経験を通して、約7割が専門基礎力を身につけ、約6割が高度な専門性においても身につけている。

企業評価アンケート 概況

1.回収状況

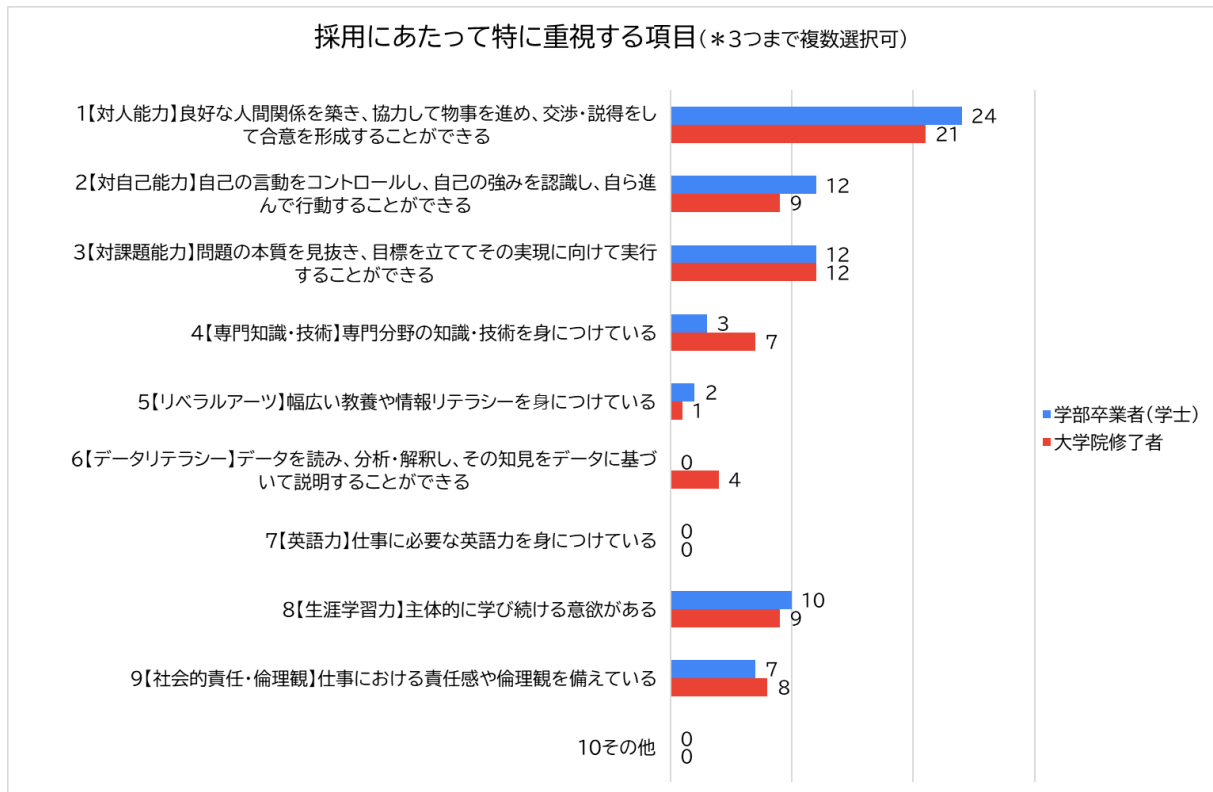
回収数が少ないため(24社)、業種ごとの集計は行わない。

(参考)回答をいただいた企業の業種



2.アンケート結果(抜粋)

【新卒採用時の重視項目(*3つまで複数選択可)】

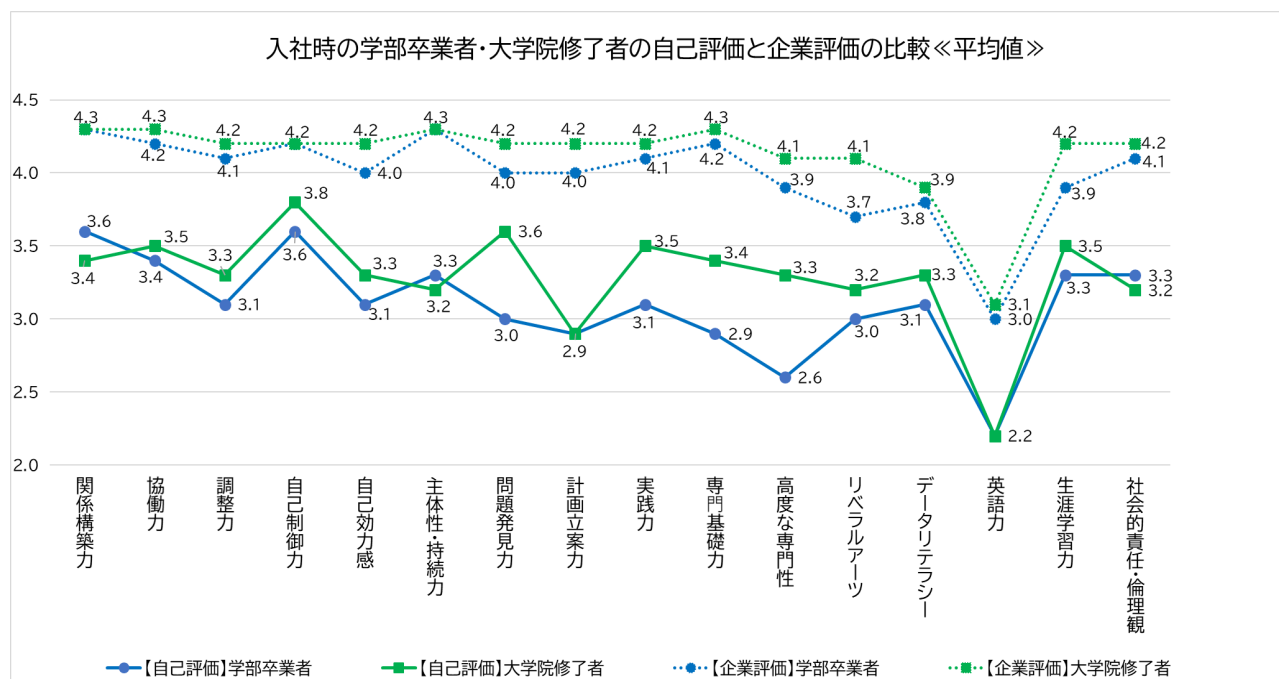


- 新卒採用にあたって重視する項目は、対人能力>対自己能力≧対課題能力>生涯学習能力>社会的責任・倫理観>専門知識・技術 となり、2021年度調査開始以降、同様の結果である。
- 「4 専門知識・技術」以外は学部卒業者と大学院修了者で大きな差はみられない。

【本学 学部卒業者・大学院修了者の資質・能力】

入社時における「資質・能力」について、学部卒業者と大学院修了者の自己評価と企業評価の比較を行った。

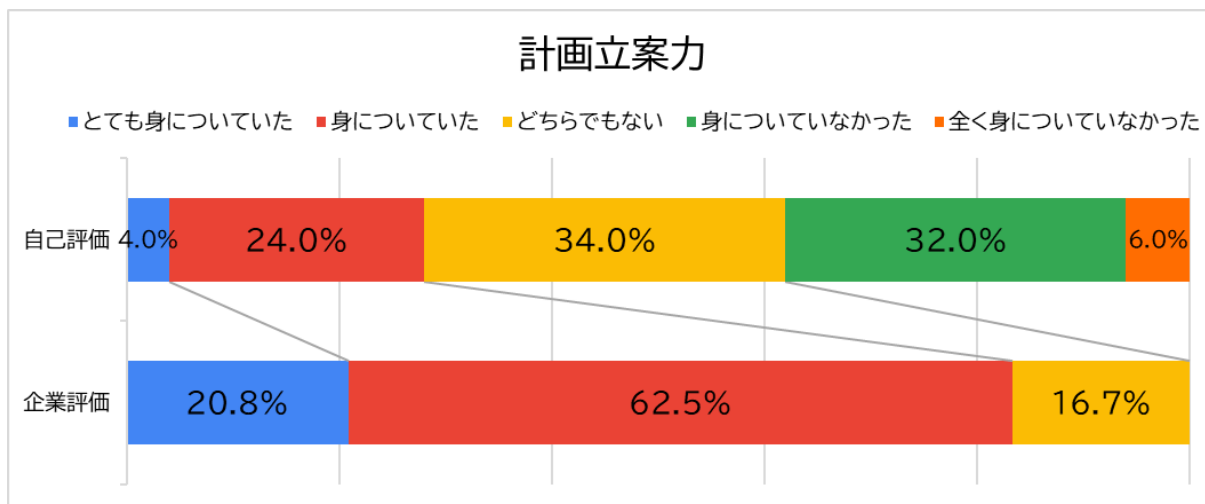
※学部卒業者に関するスコアを青色の折れ線グラフ(自己評価:実線、企業評価:点線)、
大学院修了者に関するスコアを緑色の折れ線グラフ(自己評価:実線、企業評価:点線)で表示



- 企業評価において、【リベラルアーツ】【データリテラシー】【英語力】は評価がやや低めに振れたが、この3項目は前述の「新卒採用時の重視項目」にあるとおり、新卒採用時の重視項目とはなっていない。
- すべての項目において、企業評価 > 自己評価 という結果となった。その中でも、自己評価と企業評価のGAPが大きい、上位3つの項目を取り上げる。

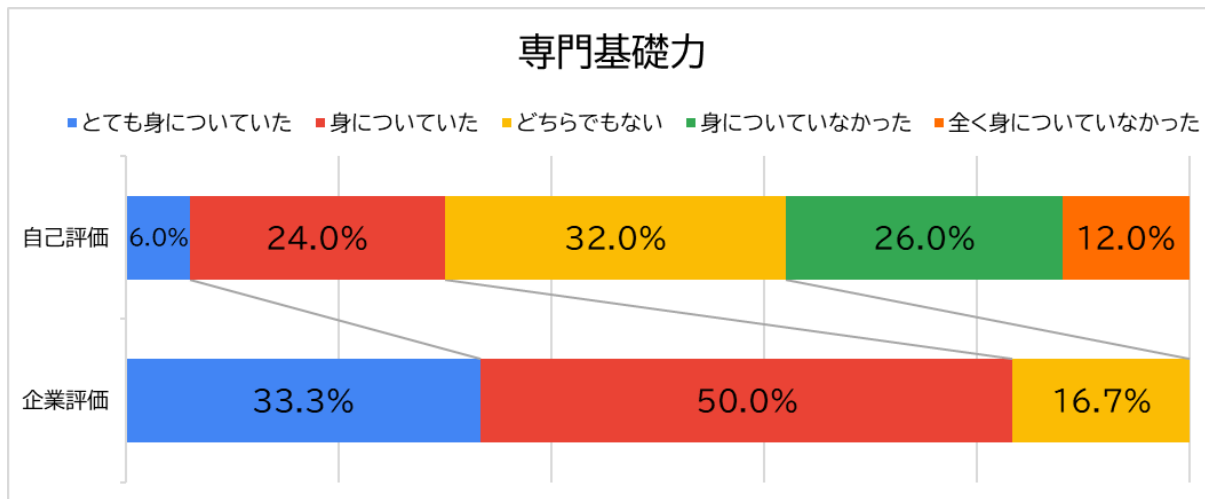
【学部卒業者】自己評価と企業評価の GAP が大きい項目

① 計画立案力



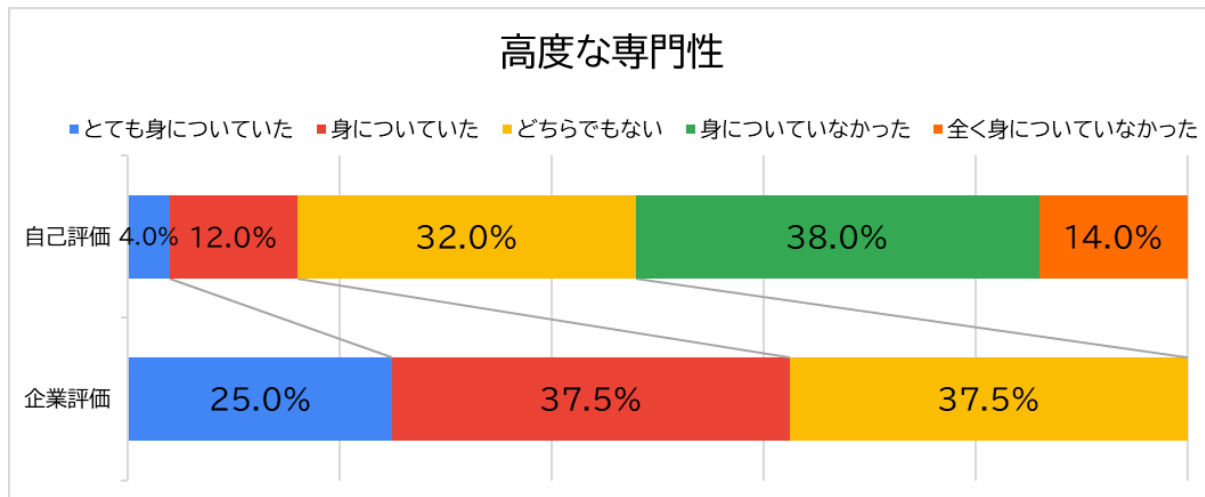
- 企業評価において、「とても身についていた」「身についていた」の回答者の合計は 83.3%であった。自己評価比 +55.3%と、目標を明確にし、その実現に向けたシナリオを描くことができていると評価されている。

② 専門基礎力



- 企業評価において、「とても身についていた」の回答者は 33.3%と、今回の設問項目の中で最も高い数値であった。卒業生の多くが、専門分野の基礎知識や技術を大学生活の中で身につけられていると推測される。

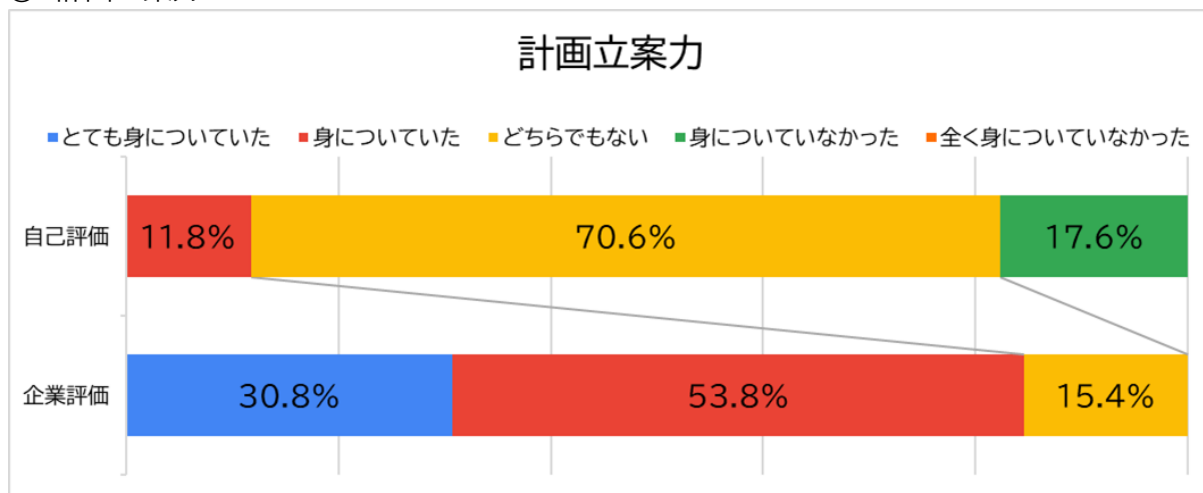
③ 高度な専門性



- 【専門基礎力】には劣るが、【高度な専門性】においても、卒業生の就職先の約6割が「とても身についていた」「身についていた」と回答した。

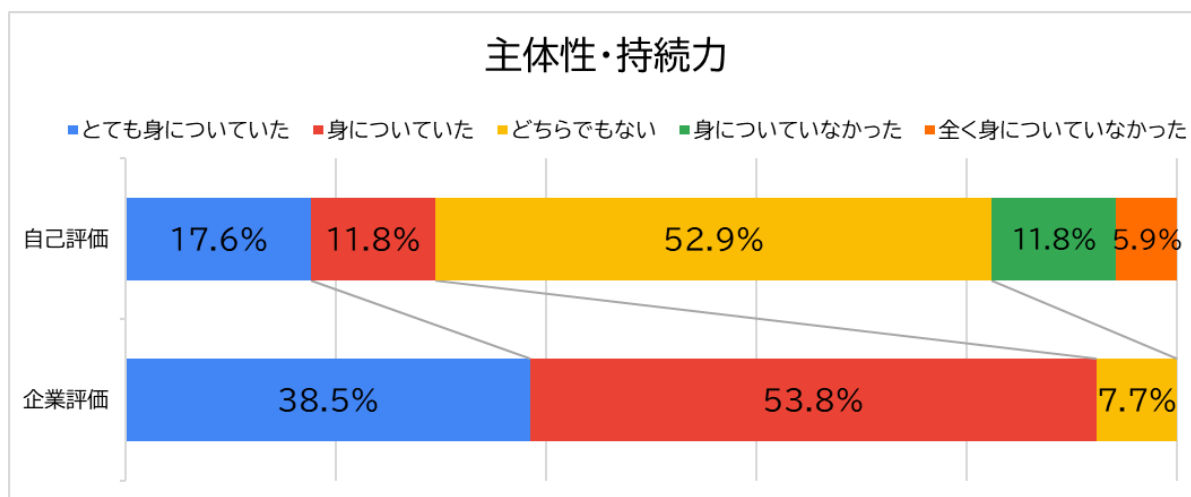
【大学院修了者】自己評価と企業評価の GAP が大きい項目

① 計画立案力



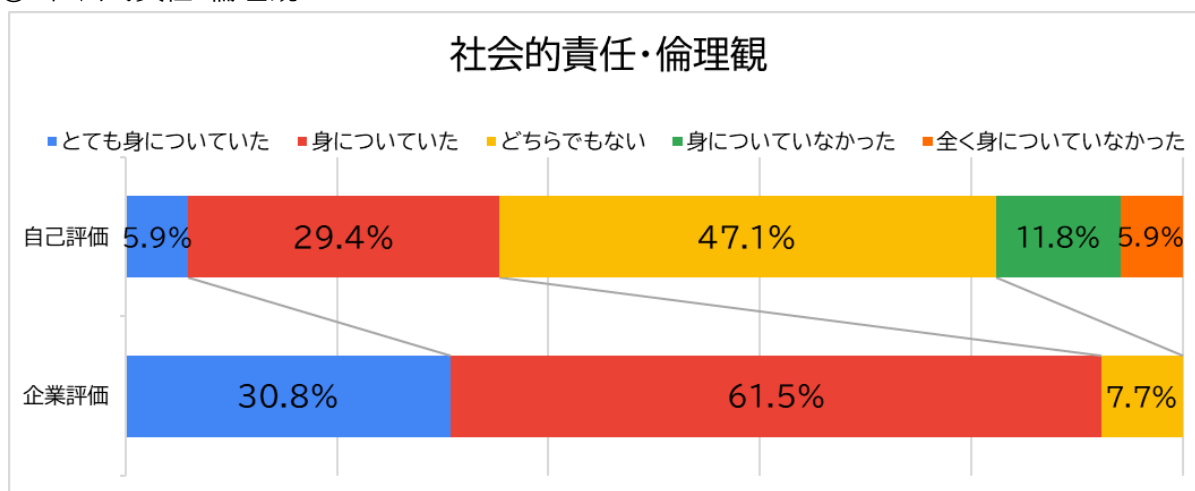
- 大学院修了者における「どちらでもない」の回答者割合は7割を超えているが、実際の企業評価としては、目標を立てその実現に向けたシナリオを描くことができる力に関して、8割以上が「とても身についていた」「身についていた」と回答し、GAP が非常に大きかった。

② 主体性・持続力



- 企業評価において、「とても身についていた」「身についていた」の回答者の合計は 92.3%であった。自己評価比 +62.9%と、自己の意思や判断において、自ら進んで行動し、一度決めたことはやりきることができるかと評価されている。

③ 社会的責任・倫理観



- 仕事における責任感や倫理観に関しても、卒業生の就職先の約9割が「とても身についていた」「身についていた」と回答しており、十分な評価が得られている。